

News Letter

琉球大学広報誌

2025 Spring Vol.36



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/>

Island wisdom, for the world, for the future.

News Letter Vol.36 2025年4月発行

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

総務部総務課広報係

TEL.098-895-8175 kohokoho@acs.u-ryukyu.ac.jp

[目次]

●注目!琉大生

- ・地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)
Protect The Beach

02

●特集I:
新学長紹介

- ・第18代学長 喜納育江

03

●特集II:
授業紹介

- ・照屋 晴奈 准教授(教育学部)
- ・中村 崇 准教授(理学部)

05

●キャンパスライフ

- ・興村 美海(国際地域創造学部2年次)
- ・アメリカンフットボール部 stinrays

07

●ニューストピックス

●基金だより

09

11

[表紙紹介]



Protect The Beach メンバー
(後列左から)
石田 圭(理学部物質地球科学科地学系4年次)
野澤英華(理学部物質地球科学科地学系3年次)
長間祐介(理工学研究科物質地球科学専攻博士前期課程2年次)
千葉 舞(理学部物質地球科学科地学系3年次)
(前列左から)
布施咲笑(理学部物質地球科学科地学系4年次)
杉山北斗(理学部物質地球科学科地学系4年次)
※2025年3月時点



注目!琉大生

地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)とは

琉球大学では、琉大生が自ら「地域」に入り、地域の再生・活性化やそこでの課題の発見・解決等に取り組む公募型の正課外プロジェクトを、「地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)」として平成27年度より実施しています。

「ちゅらプロ」は、学内公募で提案された学生グループのアイデアに対して、学内でプレゼン審査を行い、審査を通過した優秀なアイデアを大学としてサポートしている事業で、コロナの影響で実施できなかった令和2年度を除き、これまでに37件の学生プロジェクトを実施してきました。

「ちゅらプロ」では、琉球大学の学生チームが県内各地で、環境問題をはじめとする地域課題や地域振興に向けた地域創生などに主体的に取り組んでいます。

布施 咲笑(理学部物質地球科学科地学系4年次)

私たちの活動は主に子どもたちを対象にしているので、分かりやすく伝える工夫を大切にしています。絵本を作ったり、ペーパーサークル(紙人形劇)を考えたりするのは、とても楽しい経験でした。活動中に子どもたちがたくさん質問をしてくれると、興味を持ってくれているのが伝わり、とても嬉しくなります。今後も、分かりやすくて楽しいイベントを企画し、もっと多くの子どもたちに海や砂浜の大切さを伝えていきたいです。

地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ) Protect The Beach

今回は、その中から令和5年度と6年度に採択された「美しいビーチを守るプロジェクト」を紹介します。

「美しいビーチを守るプロジェクト」 Protect The Beach

沖縄の美しい砂浜は観光資源として重要であり、自然環境を保護する目的として、沖縄の砂浜にあるサンゴや砂(星砂など)などは許可なく持ち帰ってはいけないとなっています。しかし、このことは観光客のみでなく地元の人にもあまり知られていません。このプロジェクトでは砂浜の砂について知ってもらうことを目的としています。また、次世代を担う子供たちが知識だけでなく自然とのふれあいや探索の楽しさを体験しながら学び、その認識が広がっていくことを目標に活動しています。

杉山 北斗(理学部物質地球科学科地学系4年次)

私たちは冊子の制作にも挑戦しました。写真を撮りに行ったり、文章を何度も書き直したりと大変な作業でしたが、完成した冊子を読んだ方から「わかりやすい!」と褒めてももらえたときは、頑張ってよかったと感じました。これまでの活動では、イベントの中で実際に砂浜に行って砂を見る機会がありました。2年間の取り組みを通してたくさんのご縁ができ、自分たちのスキルも向上しました。そこで、来年からは砂浜に行って実際に砂を観察するイベントを企画したいと考えています。これからも、楽しく学べる活動を続けていきます。

(左から)
布施咲笑(理学部物質地球科学科地学系4年次)
杉山北斗(理学部物質地球科学科地学系4年次)
砂川藍治(理学部物質地球科学科地学系2年次)
千葉 舞(理学部物質地球科学科地学系3年次)
野澤英華(理学部物質地球科学科地学系3年次)
※2025年3月時点

琉球大学 第18代学長

喜納 育江

「うむとうーけーじゅんにないさ」

—「思ひ」が、夢を叶える



新学長に聞きました！

Q. ご出身は？

生まれは沖縄県の那覇市首里。首里中学校、首里高校を卒業しています。

Q. どんな大学時代を過ごしました？

高校時代に全力で遊んだので、大学に入ったら逆に振り切って勉強ばかりしてきました。家庭教師のアルバイトはしていましたが、サークルには入っていませんでした。

入学当初は言語学に興味がありました。大学3年あたりからアメリカ文学が面白くなってきました。アメリカの詩や小説を1週間で必死に読んで、小さなゼミ室に皆で座り、それぞれが自由に自分の解釈を発表し、ディスカッションをするのです。発表は日本語でしたが、読むのと書くのは英文。けっこうな分量の英語の原文を自分の解釈を人前で話せるくらいまで読み込むのは学生にとっては過酷で、遊ぶ暇もないくらいでした。でも、遊ぶより勉強の方がずっと面白かったので充実した大学時代でした。



Q. 座右の銘は？

「うむとうーけーじゅんにないさ」という言葉です。沖縄の方言で「思っていれば現実になるよ」という意味。これはどこかの有名人が言った言葉ではなく、私の祖母の言葉です。例えば留学だって「行きたい」という気持ちが無ければ英語の勉強はしないし、留学するために頑張らない。そもそも何も始まらない。「やりたい」という「意思」がなければ、それは実現しないのです。

私のキャリアも「思う」ことで叶えてきました。でも、ここ10年程は、自分の意思というより流れに身を任せています。流れに身をさせて、外からの要望に応えていたら、学長になっていました。意思を持って自分の願いを現実にし続けたら、次は仲間の願いを現実にできないかを考え、そのために働く。今はそれがハッピーなことだと感じています。

PROFILE

【略歴】

- 1990年 琉球大学法文学部文学科卒業
- 1993年 米国ペンシルヴェニア州立インディアナ大学英米文学部修士課程修了
- 1996年 米国ペンシルヴェニア州立インディアナ大学英米文学部大学院課程博士課程修了
- 1996年 琉球大学法文学部講師
- 2001年 琉球大学法文学部助教授
- 2003年 琉球大学大学院人文社会科学研究科担当
- 2011年 琉球大学法文学部教授
- 2012年 琉球大学うない研究者支援センター長
- 2014年 琉球大学男女共同参画室長
- 2015年 琉球大学ジェンダー協働推進室長

Q. どんな子供だった？

意外と神経質な子供でしたね。眠っていても誰かが近くを通り足音ですぐに起きてしまうような子だったそうです。少し大きくなると、実家の近くの虎頭山を駆け回って遊んでいました。おじぎ草を触ったり、バッタを捕まえたり、野ネコと遊んだり。

Q. 子供の頃の夢は？

とくに夢はありませんでしたね。明日のことは考えず1日1日を精一杯生きるタイプだったので。英語の教員を志したのは、浪人時代。やりたいことが見えてきたのは大学4年の頃だったかな。

Q. 影響を受けた本
(学生へおススメの本)は？

影響を受けた本は色々ありますが、高校生の頃に読んだ島崎藤村の『破戒』や、V. フランクルの『夜と霧』という、アウシュビツツ収容所を生き延びた心理学者の物語は、日本の部落差別やユダヤ人差別を通して、「差別」や「いじめ」について考えるきっかけになりました。性差別という点では、大学2年の時に読んだ『第二の性』という、フランスのボーザーの著作にも衝撃を受けました。でもインパクトが強かったのは、アリス・ウォーカーの『カラー・パープル』(The Color Purple)。アメリカの黒人女性作家の作品で1985年と2023年に映画化もされています。人種や宗教、性別等による差別など、これらの本が様々な人権問題について深く考察するきっかけとなり、ジェンダーやエコフェミニズムに関する研究として今に繋がっています。

Q. 学生の皆さんへ
一言お願いします。

「よく遊び、よく学べ」

大学の4年間はあっという間です。せっかく学べる環境に身を置いているのだから、たくさん遊んでたくさん学んでください。「遊び」というのはいろんな人とたくさん会話をすること。そうなると「遊び」もものは「学び」と同じです。

琉大生に大切にしてほしいのは、知的好奇心。生活のために日々一生懸命になってしまうのは仕方ないですが、学びは楽しいこと。私自身、勉強が面白くなったのは大学からなので、今勉強が面白くないと思っていてもこれから楽しくなる可能性は十分にありますよ。



教育学部学校教育教員養成課程(特別支援教育コース)
准教授

照屋 晴奈先生

講義の概要

特別支援学校の教員免許状には、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の5つの教育領域があります。本大学の特別支援教育専修では、知的障害・肢体不自由・病弱の3種類の免許状を取得でき、私は病弱の教育領域を担当しています。

病弱とは、呼吸器疾患や悪性新生物(がん)などの慢性疾患があり、継続的な医療や生活制限を必要とする子どもたちを指します。そのため、病弱の子どもたちが学校で学ぶには、医学的な知識だけでなく、心理的な側面や社会的なサポートも必要となります。

前期の「病弱者の心理・生理・病理」では、さまざまな疾患の心理・生理・病理的な側面を学び、各疾患の教育的ニーズを理解しながら適切な支援を考えます。後期の「病弱者教育」では、病弱教育の歴史や関係機関との連携、教育課程の編成などを学び、病弱の子どもたちが学校で学びやすくなるための教育のあり方について考えています。

医学の進歩により、かつては救えなかつた疾患を持つ子どもたちが生きられるようになりました。一方で新たな病気が増え、児童生徒の実態は多様化しています。そのため、單に疾患について学ぶだけでなく、個々の子どもの実態に応じた柔軟な支援のあり方を考えられる力を養うことを目指します。

講義の中で大切にしていること

講義では、病弱の子どもたちの実態を「疾患名」だけで捉えるのではなく、一人ひとりの個性や背景を理解することを重視しています。同じ病気でも、症状の程度や治療の影

病弱者教育 病弱者の心理・生理・病理

自己紹介

私は本大学の隣町である宜野湾市出身で、琉球大学の近くで生まれ育ちました。これまで琉球大学を含め、県内外の様々な大学で学び、複数の教員免許状を取得しました。沖縄県内の高等学校や特別支援学校で教員として勤務した後、2020年より琉球大学教育学部で学生の指導にあたっています。また、多いときには週1~2回、県内の小・中・高等学校で研修やケース会議に参加し、現場の先生方と連携を図っています。生まれ育った沖縄の子どもたちや、お世話になった先生方への恩返しとして、研究や教育活動を通じて少しでも貢献できれば嬉しいです。



響は異なり、家庭や学校の環境も支援のあり方に大きく関わります。その為、「この疾患だからこう対応する」という画一的な考えではなく、子どもがどのような気持ちで日々を過ごしているのか、どんな教育的支援が必要なのかを、多角的に考えられる力を養うことを大切にしています。また講義では、医療や福祉の最新の情報にも触れ、変化し続ける現場に対応できる柔軟な視点を持つことも意識しています。

講義を通して学んでほしいこと

この講義を通して、学生には「病気を持つ子ども=支援が必要な存在」と決めつけるのではなく、子ども一人ひとりの背景や気持ちを理解し、子どもと一緒に学び合える教員になって欲しいと考えています。「この子はどんなことが好きなのか」「友人関係はどうか」「治療に対する気持ちの変化は?」など、さまざまな視点で子どもを理解し、「今」どんな支援が必要なのかを考えることのできる教員になってくれたら嬉しいです。また、病弱教育の現場では、医療や福祉との連携も欠かせません。一人で抱え込むのではなく、同僚や関係機関と協力し合いながら、未知の時代を歩む未来の子どもたちの成長を支えていく力を身に付けて欲しいと願っています。

サンゴ礁生態学

自己紹介

私は生まれも育ちも九州で、大学から米国東海岸へ拠点を移し、サンゴ礁と無縁の生活をしていましたが、学部生のころに履修した海洋生態系に関する実習で海の生物の豊かさや不思議さに触れ、大学院修士課程からサンゴの研究をはじめました。2010年からは、サンゴ礁の海に囲まれた国内でも稀なロケーションが魅力である琉球大学にて、潜水調査や、サンゴを主対象とした飼育実験系を駆使しつつ、様々な環境変化に対するサンゴの種としての応答や、サンゴ群集の変遷、サンゴ礁生態系の変容などを見える化することを目指しています。

講義の概要

「サンゴ礁生態学」では、サンゴ礁生態系を中心としながらも広範な視点から学びを深めることを目的としています。本講義では、多様な自然科学分野の中でのサンゴ礁生態学の位置づけについて体系的に理解した上で、海洋・大気・陸の相互作用がどのようにサンゴ礁という地形構造を形成してきたのかを学びます。続いて、サンゴ礁についての基礎知識として、長い年月をかけて築かれてきたサンゴ礁における多様な環境と、そこにある多種多様な生物との関係を探りつつ、サンゴ礁を取り巻く環境の変化とエネルギー循環について理解していきます。中盤では、サンゴをはじめとした底生生物の興味深い生き様(生態学)を交えつつ、生物群集の成立や、プランクトン幼生などを介した生物分布の決定要因について深掘りします。特に、基礎生物として重要なサンゴの生理と生態について、「共生」「群体性」「生活史」といった観点か



理学部海洋自然科学科(生物系)
准教授

中村 崇先生

ら考察していきます。講義後半では、サンゴ礁生物の個体群や生物群集の動態について、様々な視点から理解を深めるため、具体的なケースを題材にして学んでいきます。終盤では、自然および人為的干渉がサンゴ礁生物の多様性に与える影響などを学びながら、サンゴ礁保全管理に関する実践的な知識を習得します。

講義の中で大切にしていること

講義では、沖縄をはじめとした国内事例を紹介しつつ、実体験とつながるような説明を心がけています。例えば、海中景観を見て、生息しているサンゴの種類や形態を基に、その環境を論理的に推定する手段などを紹介しています。また、普段あまり気にされていない、「なぜサンゴ礁の海は透明度が高いのか?」などの疑問について答えていくことを大事にしています。加えて、国内外大学・研究機関と連携したCOIL型の遠隔講義(英語)も実施しており、海外や他大学の学生らとの接点を持つことで、自分が広い世界の一部であることを認識できる事を大事にしています。

講義を通して学んでほしいこと

本講義を通じて、サンゴ礁を取り巻く自然環境の複雑なメカニズムを理解し、その中で維持されてきた貴重な生態系の保全等に向けた科学的視座を育んでほしいと考えています。特に、沖縄を取り巻くサンゴ礁の状況や、世界の様々な国における自然環境の現状にも興味を持ってもらいたいながら、自身にも直接かかわる問題・課題として主体的に捉えてほしいと願っています。

大阪府出身で地域創造とドイツ語を学ぶために、沖縄に来て一人暮らしをしています。大学の近くに住んでいるので、通学は徒歩です。現在ブロードキャスト部に所属し、毎週土曜にFMぎのわんで放送されている「琉大やいび~ん」でパーソナリティをしています。沖縄の気候や文化など、違いを知るたびに驚きでいっぱいでも楽しい生活を送っています!

Q. どんな授業が面白い?

A.

キャリア形成や琉大特色の授業など、自分の将来に活かせる内容を学べる授業がとても楽しいです!!

Q. 授業が終わった後の過ごし方は?

A.

授業後はバイトや勉強、お友達とカフェに行くなど上手に空きコマを活用しています! 趣味のケーキ作りをすることもあります!!



Q. ランチはどうしてる?

A.

お友達と学食と一緒に食べたり、家が近いので家に帰って自炊したりしています。琉大の周辺にスーパー・コンビニ・お弁当屋さんがあるのも便利です。

クラブ・サークル

琉球大学アメリカンフットボール部 stingrays



基本情報

部員数 60名

活動日時 火曜、木曜 18:30~ 土曜 8:30~、15:00~

活動場所 琉球大学東口グラウンド

HP



1日のスケジュール

8:00

起床

朝ごはん、身支度を済ませ、授業が始まるまではテスト勉強や課題

16:30

空き時間



10:20

2時限: 現代社会のしくみ(オンライン)

@家で受講
社会で起こっているさまざまなできごとを、自分自身にひきつけてとらえ、自分の考えをプレゼンテーションする授業です。沖縄の文化や伝統について学生同士で議論を行うことで知識も深まりました。

19:30

ブロードキャスト部の部会



11:50

ランチ



12:50

3時限: 英米文化概論I

英語圏の歴史・文化を背景とする作品を題材に、文学と文化理解の基礎を学ぶ授業です。いろんな種類や時代の文学作品を英語で読みました。

20:00

6時限: 地域企業(自治体)
お題解決プログラム S

実際に県内市町村(自治体)、団体、企業等が取り組んでいる課題解決を調査し、実際に課題解決に向けてグループで活動する授業です。私は宮古島市でボイ捨て等のゴミ対策のために地域の人との交流や取材を経験させていただき、解決策を発表しました。

14:40

4時限: 英語プレゼンテーション演習

中級
英語での発信力並びにプレゼンテーション能力を養う授業です。オンライン英会話の教材を使い、海外の先生と英会話をしました。とても良い経験になります!

23:00

就寝

キャンパスライフ



主な活動

私たちアメリカンフットボール部は、火曜・木曜・土曜(※土曜は二部練)と、週4回の練習に励んでいます(長期休暇を除く)。練習では基本技術の習得や戦術理解を深め、常に目的意識を持って取り組んでいます。夏季休暇中には合宿を実施し、また、年2回のOB戦を開催するなど、試合がない期間でも明確な目標を持って練習に励んでいます。秋季のリーグ戦では1部昇格を目指し、チーム一丸となって挑戦しています。さらに、練習がない日も筋力トレーニングをノルマ付きで行ったり、食事管理にも力を入れたりして、フィジカルアップに努めています。このように、日々心身の鍛錬を欠かさず活動しています。

私たちアメリカンフットボール部は、人間力の成長を重視し、九州リーグ1部昇格を目指して日々努力しています。技術の向上はもちろん、チームとしての連携を深める戦術練習にも力を入れ、厳しい練習を共に乗り越えることで仲間との絆を深めています。互いに信頼しながら切磋琢磨することが、私たちの強さの源です。

また、部活動以外でもアルバイトや勉強に励むメンバーが多く、環境の不利を言い訳にせず、自らを高める努力を続けています。忙しい日々の中でも練習時間を確保し、互いに支え合いながら成長できる環境が整っています。

さらに、私たちの部には、選手だけでなく、マネージャーや戦略担当、広報など、多様な役割があります。個々の特性を活かしながらチームに貢献できるため、全員がそれぞれの立場で重要な役割を担っています。部員同士のコミュニケーションも活発で、笑いが絶えない明るい雰囲気の中、充実した活動を行っています。

私たちは「九州打破」を掲げ、九州の頂点を目指して挑戦中です。ひたむきに努力を続け、仲間と共に成長できる環境がここにはあります。共に高め合い、目標に向かって進む仲間を歓迎します。興味のある方は、ぜひ一度練習に参加してみてください!



UR Topics

[10/7]

プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー表彰式を開催



[10/29]

2024年度 琉球大学
大学院科特別プログラム入学式を開催



[11/1]

2024年度「鎌倉フェローシップ・沖縄ロースクール奨学金」
目録贈呈式を開催しました



[12/11]

企画展「読む・知る・つながる 障がい学生支援室」を開催



[10/29]

2024年度9月期琉球大学 大学院理工学研究科
留学生特別プログラム修了式及び学位記授与式を開催



[10/29]
第73回琉大祭を開催



[11/21]

令和6年度琉球大学附属図書館企画展を開催



[12/11]

第18回琉球大学びぶりお文学賞
の選考結果について

2024年5月より募集をしていました「第18回琉球大学びぶりお文学賞」は、10月22日に募集が締め切られ、小説部門に5編、詩部門に13編の応募がありました。



[12/11]

渋谷文子さん(博士後期課程)が日本国際保健医療学会奨励賞を受賞



[12/16]

THE世界大学ランキング2025で
本学がランクイン

イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education(THE)」が世界大学ランキング 2025 を発表し、本学は 1,501+位にランクインしました。



[1/7]

2025年1月6日に新病院における外来診療が
スタートしました



[12/24]

平良怜南さん(地域共創研究科公共社会プログラム1年次)と
松森史晃さん(教育学部保健体育専修4年次)が
日本トレーニング指導学会大会にて優秀研究表彰を受賞



[2/26]

令和6年度第3回及び第4回学生と学長との懇談会を開催



[1/17]

2024年度 経済同友会インターンシップ
学内実習成果発表会を開催



[3/10]

「沖縄振興開発金融公庫と琉球大学工学部との共同
研究成果発表会」の開催について



大学基金だより

長きにわたり本学学生に支援を行ってきた 吉武 登様へ感謝状を贈呈しました

令和6年12月12日(木)に吉武 登様への感謝状贈呈式を執り行いました。

吉武様は、経済的に厳しい状況にある学生の教育機会が失われることがないようにと継続的にご寄附ください、近年では、沖縄のために有為な人材に育つて欲しいとの思いから、理系学生に対し、ご支援くださっています。

15年前から社会貢献したい思いで、寄附を続けて来られた吉武様から、「経済的理由で教育を受ける機会が失われるのではなく、いい人材が育たない。世界に立ち向かうために、質のいい教育を受け、社会で活躍して欲しい」との言葉をいただきました。



(左から)西田睦学長、吉武登様

令和6年度琉球大学女子学生学術研究及び社会活動等うない奨励賞

令和7年2月14日(金)に令和6年度琉球大学女子学生学術研究及び社会活動等うない奨励賞の表彰式が行われました。本賞は、琉球大学基金「うない女性研究者・リーダー育成基金」による事業の一環で、将来を担う優秀な女性リーダーの育成を目的として本学の女子学生の意欲的な研究活動や社会貢献等の活動を表彰するものです。

今年度は、保健学研究科博士後期課程3年次の渋谷文子さんと理学部4年次の新城陽菜さんが受賞し、石原昌英理事・副学長(教育・学生支援・国際交流担当)より、表彰状と奨励金が授与されました。

受賞した渋谷さんは「包括的性教育と感染症関連政策の調査を通じた国際学校保健の研究」、新城さんは「沖縄の海洋天然物から寄生虫に対する活性を持つ化合物の探索」をテーマに研究活動に取り組んでおり、女性リーダーとしての今後の意気込みとともに「受賞を大変光栄に思う。今回の受賞が今後の研究の励みになる」と感謝の言葉が述べられました。



(左から)保健学研究科 渋谷文子さん、石原昌英理事・副学長



(左から)理学部 新城陽菜さん、石原昌英理事・副学長

■芳名簿 (令和6年4月から令和7年2月)

個人

棚原 朗	本田 孝雄	田中 悠樹	小泉 穗高	外間 登美子	藤原 幸男	小川 由英
船越 裕和	浅岡 義治	山本 博子	田中 和貴	玉城 正己	小倉 暢之	平敷 昭
江間 康史	砂原 佳子	翁長 朝常	仲本 義和	新田 保秀	田中 和貴	
吉武 登	植村 政孝	奥 輝之	本 札子	多和田 真吉	森田 和子	
						他261名

法人

一般社団法人中城村養殖技術研究センター	株式会社 富建	株式会社和高建設工業	沖縄綿久寝具株式会社
株式会社琉球補聴器	株式会社山下設計	株式会社屋部土建	有限会社陽功建設
株式会社 沖縄歯科器材	有限会社 拓商	有限会社ファーストメディアカル	重信電気工事株式会社
株式会社泉設計	株式会社国際印刷	有限会社緑建	日本総合整美株式会社
照屋電気工事株式会社	日商事務機	株式会社国際ビル産業	三協電設株式会社

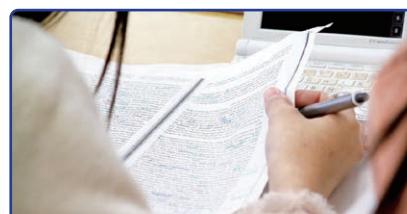
■基金による人材育成・地域貢献

本学では、学生支援・教育研究活動を強化し、地域社会・国際社会へ還元していくことを目的に琉球大学基金を設置し、広く社会からいただいた寄附金による支援事業を実施しています。使途を特定せず琉球大学基金運営委員会承認のもと事業が実施される一般基金と、特定の使途を目的とした以下の8つの特定基金が設置されています。



一般基金

琉球大学全体の教育・研究・社会貢献に活用する基金です。



修学支援基金 [税額控除対象]

経済的に修学が困難な学生への支援です。



農水一体型サステナブル 陸上養殖共創拠点形成基金

農業と水産業が融合した新産業創出により、若者が主役となった「サステナブルな食の未来」を実現するための基金です。



QUEST基金

学生の国際交流を応援・支援するための基金です。



うない女性研究者・リーダー 育成基金(うない基金)

男女共同参画を推進し、時代を担う女性人材育成のために活用します。



沖縄健康医療推進基金

沖縄県内の企業よりいただいた寄附金を原資として設置した基金です。通信技術・ICT技術等を活用して、離島や沖縄本島北部地域の教育環境の向上を目指します。



「つながる離島・広がる沖縄」 教育未来基金

沖縄県内の企業よりいただいた寄附金を原資として設置した基金です。通信技術・ICT技術等を活用して、離島や沖縄本島北部地域の教育環境の向上を目指します。



結転生(ゆいまーる)基金

社会的課題である貧困の連鎖を防ぐための基金です。



岸本遺贈基金

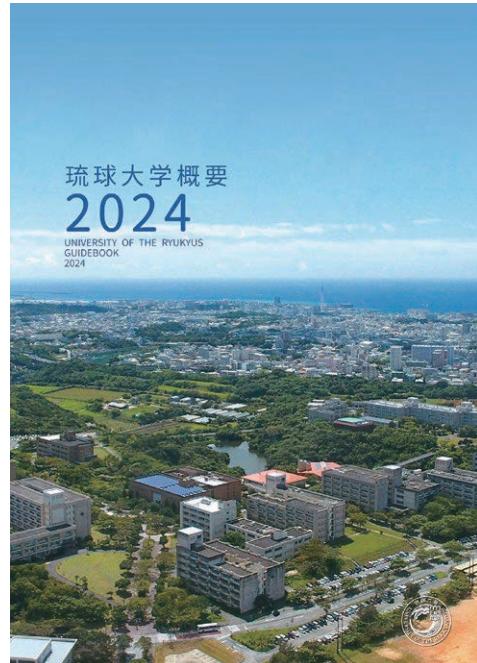
地球自然環境保全に向けた教育・研究活動やグローバル人材養成等を目的とした基金です。

琉大の刊行物

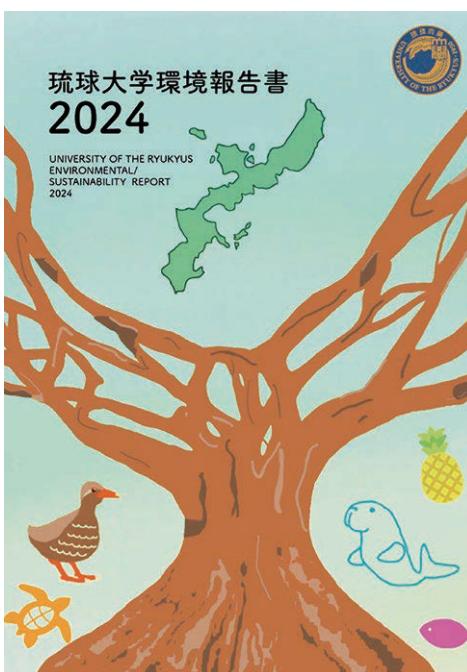
統合報告書



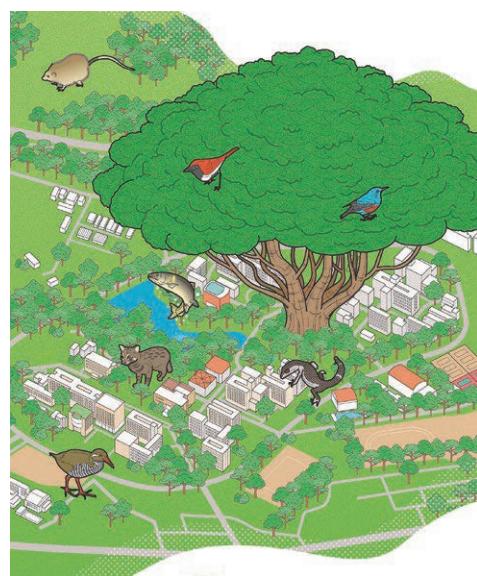
大学概要



環境報告書



大学案内



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS